銀の道探訪マップ⑤

三次市山家（やまが）町～三次市三良坂町編

三次市三次町

三次市山家町から下ってくると、銀の道は江の川水系西城川と出会う。ここから三次市街まで、切り立った崖の道を進む。宮の峡（みやのかい）と呼ばれる難所だ。すっかり日が暮れて着いた一行は、三次で二泊目の宿をとる。ここは山陰と山陽の交易の拠点として古くからひらけ、町並みにその趣を残している。

三次から吉舎までの間はほとんど平坦な道が続くが、川を渡らなければならない所がいくつかあって、決して楽な旅ではなかった。

この区間の主な見どころ

- 神野瀬川の渡し
- 山家一里塚跡
- 宮の峡
- 稲生武太夫の碑
- 三次の道標
- 運甕居
- 三次社倉
- 浅野堤
- 鳳源寺
- 歴史民俗資料館
- みよし本通り人形館
- 照林坊
- 住吉神社
- 陣山墳墓群
- 寺町廃寺跡
- 岡田の渡し
- 六地蔵
- 知波夜比古神社
- 一字一石塔
- 奥家住宅

三次の土人形

この地方では男子が生まれると武者人形、女子が生まれると娘人形、あるいは性別に関係なく天神人形を贈るという習慣がある。

三次人形の歴史は古く、文献では一八五四年に大森領祖式村の瓦師が浜田の長浜人形の技術を習得し、良い粘土を求めて三次までやって来て、宮の峡という所で土人形作りを始めたとされている。言い伝えではもっと古く、一六一四年に三次藩主浅野公が江戸から人形師を伴って帰ったという説もある。

三次人形は、みよし本通りの人形館で見学することができる。

三次人形

赤穂浪士にまつわる話

三次市と赤穂浪士の関係は深い。四十七士の一人、菅谷半之丞は赤穂藩取りつぶしの後、親戚を頼って三次に入っている。

義士堂の木像

文献によると半之丞は三次の寺戸にある甲斐谷に小さな庵を構え住まわしてもらっていた。釣りなど遊びと酒の日々を過ごしていたが、ある日、有馬の湯に出かけると言い残し姿をくらました。やがて討ち入りのニュースが三次にも伝えられ、四十七士の中に彼の名が入っていることを知った町中の人が驚き、その忠義心を讃えたという。

鳳源寺の義士堂には四十七士の木像が安置され、菅谷半之丞もその一隅に立っている。

三次の鵜飼い

鵜飼いは、中国の長江流域や日本でしか見られない、大変珍しい漁法だ。日本では、かつて全国一五〇ヶ所くらいで行われていたが、現在では、主に西日本の十数ヶ所でしか見られない。

三次の鵜飼いは、戦国時代に、毛利元就に敗れた尼子の武士達が始めたのが元になったと言われている。その技術は脈々と受け継がれ、アユを取ることも当然だが、それ以外に「見せる」という技術についても様々な工夫が加えられた。舟が円を描くように中心へ向かって移動する「ツルノスゴモリ」、あるいは、数そうの舟が一斉に川を横切るように進む「ソウガラミ」など、大変見応えのある漁法がその例だ。

三次の観光鵜飼いでは、姉妹交流をしている中国の四川省から贈られた白い鵜が、黒い鵜と並んで泳ぐ姿が見られる。

三次の観光鵜飼

浅野堤

浅野堤は一八二〇年に書かれた「三次町国郡誌」によると、堤防の長さは町の東側が五二〇メートル、西側が八八〇メートルで、三次藩主浅野長治の時代に築かれたものという。

浅野長治は一六三二年に広島藩から分家された三次藩の初代藩主として着任した。その時一九歳という若さであったが、三次の城下町づくりに力を注いだ。本来、城は堅固な山の上に築くのが普通であったが、三次の町が川に囲まれているため、長治はこれを城の堀と見立て、三次町全体を城郭と考えた。そして武家も町人もまとめて、城内に住まわす、総郭型（そうくるわがた）という、当時としては革新的な考え方で町づくりを行った。

発掘直後の浅野堤（現在は一部しか見ることができない）

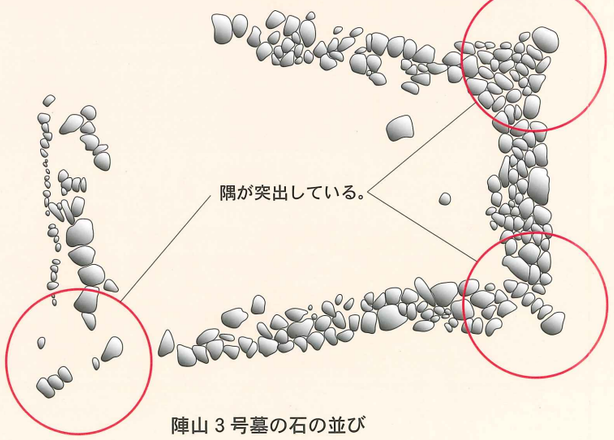
四隅突出型墳丘墓

三次には四つ角を突出させて糸巻きのような形にした、四隅突出型墳丘墓が多く見られる。

その分布域は江の川流域、出雲地方、そして北陸まで広がっているが、年代的には出雲や北陸のものは比較的新しいものが多い。近年発見された三次の陣山墳墓群は一世紀から二世紀初めのものとされ、一般的に三次地方の四隅突出型墳丘墓は古いものが多い。

このことから、三次市を中心として、四隅突出型という変わった墓を造る、独自の文化を持っていたナゾの集団が江の川流域には存在していたと考えることができる。そしてこの様式は発展しながら出雲に伝わり、遠く北陸まで伝わったものという可能性も考えられる。

陣山墳墓群



陣山３号墓の石の並び

主な連絡先

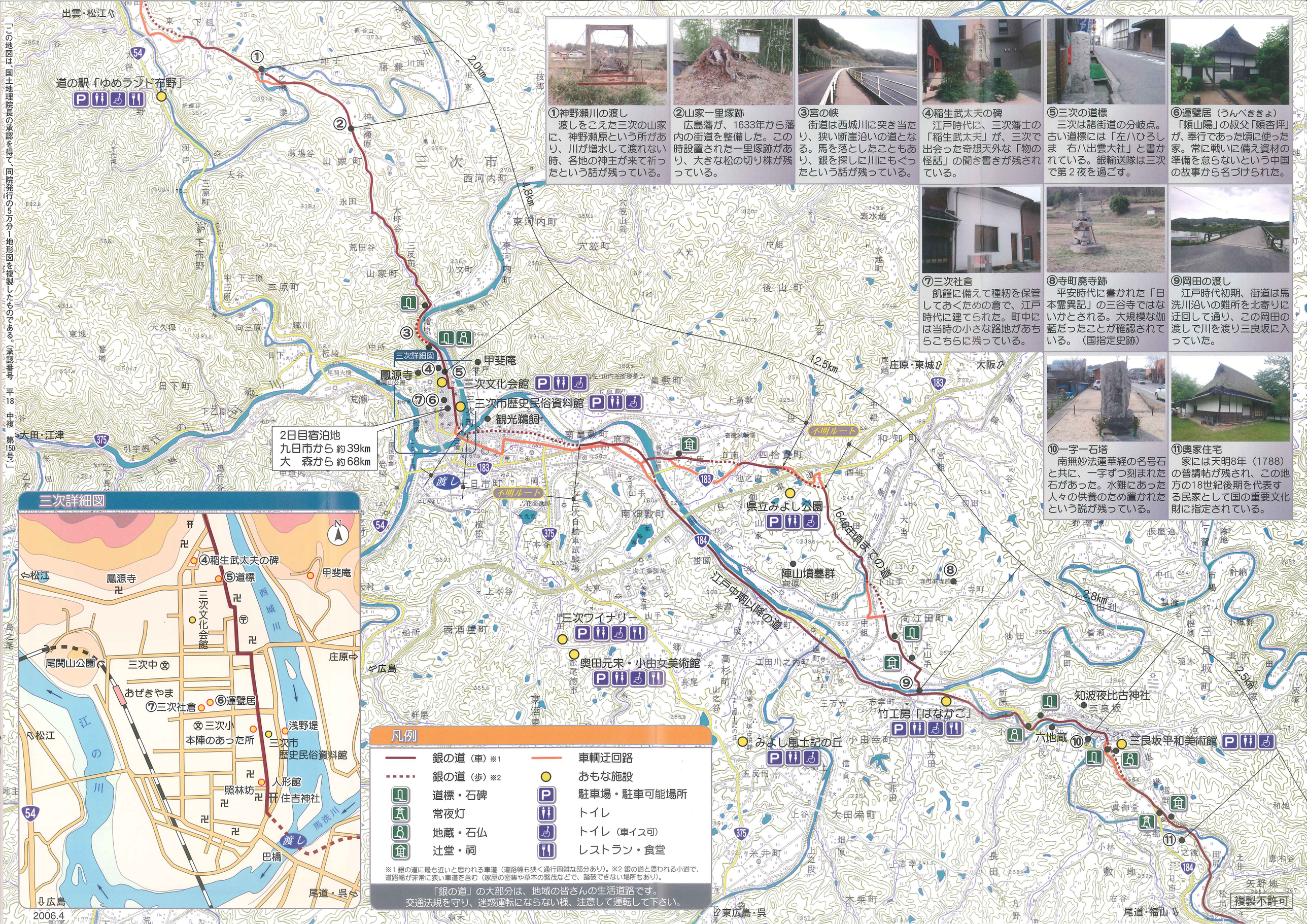
三次市役所	0824-62-6111
三次市立歴史民俗資料館	0824-64-3517
三次市観光協会	0824-63-9268
県立みよし風土記の丘	0824-66-2881

銀の道関連ホームページ

江の川文化圏会議　銀の道探訪
http://www.chusankan.jp/gonokawa/roman/HISTORY/
夢街道ルネッサンス
http://www.cgr.mlit.go.jp/cgkansen/yumekaidov/

制作　国土交通省中国地方整備局三次河川国道事務所
問い合わせ先：「銀の道交流会事務局」TEL 0855-87-0775（Fax兼用）

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分1地形図を複製したものである。（承認番号　平18　中複　第150号）」



①神野瀬川の渡し
渡しをこえた三次の山家に、神野瀬原という所があり、川が増水して渡れない時、各地の神主が来て祈ったという話が残っている。

②山家一里塚跡
広島藩が、1633年から藩内の街道を整備した。この時設置された一里塚跡があり、大きな松の切り株が残っている。

③宮の峡
街道は西城川に突き当たり、狭い断崖沿いの道となる。馬を落としたこともあり、銀を探しに川にもぐったという話が残っている。

④稲生武太夫の碑
江戸時代に、三次藩士の「稲生武太夫」が、三次で出会った奇想天外な「物の怪話」の聞き書きが残されている。

⑤三次の道標
三次は諸街道の分岐点。古い道標には「左ハひろしま　右ハ出雲大社」と書かれている。銀輸送隊は三次で第２夜を過ごす。

⑥運甓居（うんぺききょ）
「頼山陽」の叔父「頼杏坪」が、奉行であった頃に使った家。常に戦いに備え資材の準備を怠らないという中国の故事から名づけられた。

⑦三次社倉
飢饉に備えて種籾を保管しておくための倉で、江戸時代に建てられた。町中には当時の小さな路地があちらこちらに残っている。

⑧寺町廃寺跡
平安時代に書かれた「日本霊異記」の三谷寺ではないかとされる。大規模な伽藍だったことが確認されている。（国指定史跡）

⑨岡田の渡し
江戸時代初期、街道は馬洗川沿いの難所を北寄りに迂回して通り、この岡田の渡しで川を渡り三良坂に入っていた。

⑩一字一石塔
南無妙法蓮華経の名号石と共に、一字ずつ刻まれた石があった。水難にあった人々の供養のため置かれたという説が残っている。

⑪奥家住宅
家には天明8年（1788）の普請帖が残され、この地方の18世紀後期を代表する民家として国の重要文化財に指定されている。

三次詳細図

凡例

	銀の道（車）※1		車輌迂回路
	銀の道（歩）※2		おもな施設
	道標・石碑		駐車場・駐車可能場所
	常夜灯		トイレ
	地蔵・石仏		トイレ（車イス可）
	辻堂・祠		レストラン・食堂

※1 銀の道に最も近いと思われる車道（道路幅も狭く通行困難な部分あり）。※2 銀の道と思われる小道で、道路幅が非常に狭い車道を含む（家屋の密集や草木の繁茂などで、踏破できない場所もあり）。

「銀の道」の大部分は、地域の皆さんの生活道路です。
交通法規を守り、迷惑運転にならない様、注意して運転して下さい。

2006.4